

## 巻頭言

国立研究開発法人理化学研究所 理事長 松本 紘

理化学研究所（理研）は、二〇一七（平成二九）年の春、創立百周年を迎えました。

四月二六日東京国際フォーラムにおいて、天皇皇后両陛下の御臨席を仰ぎ、政府機関、国内外の研究機関・大学、産業界のご来賓をお迎えして、理化学研究所創立百周年記念式典を挙行致しました。このような節目に、理研で仕事をする事ができたことは、自らの人生にとっても大きな喜びであり、職員の皆様、理研出身者の皆様と共に、祝したいと思います。

今から一〇〇年前は、わが国は明治維新を成し遂げ、欧米の列強に伍する豊かで強い国にならんと、自らの手で追い付き追い越すべく、科学技術の必要性が高まった時期であり、渋沢栄一翁、高峰讓吉博士らの「国民科学研究所」を作るべしとの提唱は、時宜を得たものでした。

これを受け、一九一七（大正六）年に財団法人理化学研究所は、「我国の産業の発展に資すること」を目的として、科学研究と応用研究を行う最初の総合研究所として設立され、その基本的考え方を「理研精神」として今に受け継いでいます。

財団法人として発足した理研は、株式会社、特殊法人、独立行政法人、国立研究開発法人と、時代の要請に応えながら組織形態を変えつつ、わが国を代表する研究機関として、幅広い分野で先導的な研究を進めてまいりました。二〇一六（平成二八）年には、特定国立研究開発法人に指定され、閣議決定された基本方針を受けて「世界最高水準の研究成果の創出」を目指しています。

理研は、かつて、研究者の自由な楽園といわれてきました。学問や研究が権力からの束縛を受けないという意味での自由は当然です。しかし、それ以上に重要なことは、己の頭脳の中に刷り込まれた既存の価値や常識から飛躍すること、己を見つめ直し、自らが定めた束縛から脱出する自由が存在すべきと考えます。幸い、理研は、①研究室の規模が比較的大きく、長期的な大型プロジェクトを計画、実行できる、②大学にはない大型施設の開発と運用・共用を行う力がある、③研究支援者としての技術者、研究を推進する事務職員の能力が高い、④研究室間の垣根が低く、日常的な研究の議論から新領域、学際領域の開拓が容易な体制にあるなど、大学や他の研究機関にはない優れた特徴を有しています。

理研が今後一〇〇年を見据え、世界に冠たる研究機関の一つとなるためには、これらの特徴を生かし、これまでの研究成果はもとより、研究運営に関わる数々の先駆的な取り組みや経験を礎として、研究者のみならず役職員が一丸となり、未来社会を見据え、今後の一〇〇年に果敢に挑戦し続けることが必要です。

これからの時代、「知識」と「人」が織りなす「知恵」が社会発展の源泉となると考えています。それ故に、地球規模の課題解決の先にとどのような社会を目指すのか、何のためのイノベーションなのか、といった問題を深く洞察する必要があります。さらに、「理研の築く知恵」を速やかに社会価値に還元することも必要です。

理研は、これらの課題に果敢に取り組むとともに、これからの一〇〇年先を見据え、大きなビジョンと至高の科学力をもって、「研究開発成果の最大化」を図り、豊かな国民生活の実現や国際社会の発展に貢献することをここにお誓い申し上げます。